

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年8月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100264		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホームもえぎ野（あかねユニット）		
所在地	広島市安芸区船越南3丁目23番6号 (082) 822-8181		
自己評価作成日	平成24年5月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100264-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年7月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切に、スタッフも物語を知った上で、各入居者の心に寄り添うケアを実践している。また、入居者の心が動いた時に、すぐに行動ができるように日頃より心掛けている。それぞれにケア内容は違い、一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいる。理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え、色々な場面において、自分の親や祖父母だったらどうするだろうかと常に自分自身に問いかけ、もえぎ野が入居者様の「家」に近づけるように日々努めている。地域とのつながりを大切に考え、保育園などと一緒に行事を行うなど、地域との触れ合いに努めている。また、家族会を通じて、家族と一緒に入り入居者様の生活を支えて行けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

- ・管理者は年に2回、職員一人ひとりと面談し、年度末に「個人目標」の達成度を評価し人事考課を取り入れ職員の自己実現、自己成長を推進し質の高いサービスを提供する仕組みを作り実践している。
- ・事業所内で新入職員の入社式を行い、利用者にお披露目するユニークな発想を取り入れ、利用者との関わりを大切にしている姿勢が伺える。
- ・運営推進会議で防災、災害時の対策を町内会長等を通じ地域住民へ協力を要請し地域住民、消防署合同の避難訓練ではより具体的に避難経路を設定し実践している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔とぬくもりの中でそして家族として・・・」という法人理念をもとに、毎年ユニット目標を作り管理者と職員は実践し年度末には目標の評価を行っている。	事業所の理念「笑顔と温もりの中でそして家族として」を事務所に掲示し、それに加え職員の年間「個人目標」を掲げ、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の行事やお祭りなどに参加することや散歩等の外出で公園やスーパーに出掛け地域の人々との交流に努めている。	安芸区役所、町内会、消防団、合同の避難訓練に参加し時間を図り避難経路を実践し安芸区役所と協力し、役所の6階まで車いすを担ぎ避難訓練を行う等、より実践に近い取り組みを行い地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーとして地域の方に認知症について理解してもらうように活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様から助言を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議の構成メンバーは入居者の方、ご家族、町内会長、地区民生児童委員、地域包括支援センター職員、他事業所グループホーム職員、管理者である。会議では運営状況、行事、避難訓練等の報告を行い参加者から防災災害訓練の指導、地域住民とのかかわり方への助言を貰い運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。	区の担当者に支払い困難な入居者の対応について相談等や、運営推進会議の報告書を提出し連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関には施錠をせず、徘徊されたり帰宅願望のある方には安全を考えチャイムなどを設置して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。全体会議で、身体拘束についての勉強会を行っている。	運営規定に身体拘束の行動制限を記載しており、身体拘束しないための検討会議（1年1回グループワーク言葉遣い）を実施している。ユニット入口や玄関は日中施錠していないが、表門に繋がる経路に安全確保のため家族に説明してセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議にて、虐待の防止について、研修。話し合いを行い、日々の生活の中で身体に傷などが無い様に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在入居されている方に、成年後見人の方がおられる。また、ご家族の中には、成年後見人制度を利用した方が良い方も中にはおられる。ご家族に制度の紹介などを行い利用してもらえるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	もえぎ野を事前に見学して頂き利用者の家族の不安や疑問を言っていただき十分な説明や理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を発足し、家族会を通して要望等を行って頂けるようにしている。直接要望などを言って頂くように契約時にも話をしており、意見・要望があればできるだけすくすく改善するようにしている。	家族会や家族会合同の花見会を開催し懇親を図っている。家族会に来られない家族に「もえぎ野だより」や、利用者の個々の暮らしぶりや行事について請求書と一緒に郵送し伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、会議を開き、また茶話会などで管理者に話をするなど意見交換をしている。日頃から不満・苦情など気軽に話が出来様に、職員とコミュニケーションを図っている。	毎週日曜日の30分カンファレンスや連絡ノートで職員の要望や意見を聞く機会を設け、管理者は職員が自由に意見が言える雰囲気を作り早めに解決するように努めている。浴室の備品（手すり、シャワーチェア）の購入希望等、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てるように、ユニットの年間目標及び個人の目標を作成している。受けた研修を聞き希望に沿った研修に参加出来る様にしている。昨年度より、人事考課制度を導入し、職員のやる気を出せる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。職員の興味がある研修を聞き、希望に沿った研修が受けられる。自紙勉強会として、介護福祉士・介護支援専門員勉強会・料理研修なども行い職員を育てる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	広島県グループホーム協会事業者交流会に参加し、他施設とも積極的に交流を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心してサービスの開始ができるように要望等あれば耳を傾け信頼関係づくりに努めご家族様ともどもコミュニケーションを取り安心して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前に事前訪問したり、事前にホームに来てもらい、説明を行すなかで、現在家族が困っている事等を聞くようにしている。入居されてからも、しっかり家族と会話をする事で関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用前に本人・家族より話を聞きアセスメントをしたうえでサービス内容を検討している。また、定期的にスタッフとも話し合いを行う事で、今必要なサービスの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事をしたり行事などを行い、家族としての気持ちを持って、接している。共に過ごすことで共感できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	いつでも面会に来てもらい、家族の方と絆を大切にもらっている。家族会などで、一緒に行事に参加してもらい会を盛り上げてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人からの手紙や電話でのやり取りを大切にしている。(あまり手紙や電話のやり取りはない) 知人・友人の面会も自由に来て頂くようにしているが、現在あまり来られていない。	知人や友人が訪ねて来た時にはお茶をもてなし居室で歓談して貰っている。馴染みの美容室やお店へ行く支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士話ができるように職員が中に入り、支援している。一緒に生活をしているという雰囲気を出す事で、共有の時間を過ごすように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終わっても、相談があれば対応し、今までの関係を断ち切らない様、対応する予定にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者個人の思いや希望には出来る限り対応している。困難な方はご家族やスタッフで話し合い検討している。	日常の会話の中で個々の思いや意見を聞き取り記載し、表現を発出しづらい利用者について、態度や仕草から理解し利用者の個人ノートで全職員で共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に本人の生活歴を家族に聞いたり、本人との会話の中で生活歴や馴染みを聞かせてもらい、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中でその人らしく暮らせる様に過ごして頂きこの入居者様の心身状態や有する力等の現状把握に努めている。あまり出来ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフや関係者の間でご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合いの場を設け介護計画を作成している。	3ヶ月に1回、会議やカンファレンスを行い認知症研修センターのひもときシートを活用し見直しをしている。状態の変化や必要に応じて主治医、看護師、職員の見取り入れ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙があり入居者の状態や様子、言動など気になったことを個別ノートに記録している。カンファレンスなどに使用している。職員は業務に入る前に記録を読み情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族様の要望に出来る限り対応出来る様にサービスやケアを行えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	フルーツ演奏・化粧ボランティア等の地域ボランティアの方に月一程度来てもらっている。地域の保育園の方にも話を行い、(餅つき・節分会・その他不定期に訪問してもらっている。)地域とのつながりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週、協力医の往診がある。電話での連絡は、24時間取れるようになっていた。かかりつけ医より指示があった場合は、総合病院など適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の意見を尊重し、希望の医療機関を選択しており、専門外来受診は家族の付き添いが原則で、家族の希望により専門科への通院介助の支援を行っている。結果報告を含め情報を家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	もえぎ野内で看護師を確保し、日々バイタルCKなどを行って入居者の健康管理の把握に努めており、気付きや異常時のなどの場合は、看護師に報告し適切な対応、指示をもらう様に努めている。早期発見・早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院の看護師としっかり、情報交換を行うようにしている。入院中も面会など行い、関わりを継続する。退院後も継続してかかりつけ医と継続して治療してもらるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期についての対応を検討しているが、今現在そのような方はおられない為実施していない。	入居時に看取り指針を説明し、重度化に至った場合は家族の意向を確認のうえ家族、主治医、ホームと連携し段階に応じて利用者、家族の意思を尊重した支援に努めている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えての訓練はおこなって、(AED使用法、救急蘇生法など)現時点で職員全員が実践力を備えているとは言えない。適宜勉強会をおこなっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防火訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えてある。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていないが、災害時における協定書を地域の町内会を結んでいる。	3月、8月に消防署立会いのもと避難訓練を実施し指導を受けている。町内会と協定書を締結し、地域との協力体制が強化されている。近隣在住の職員が緊急時に駆けつけられる連絡体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	それぞれの入居者のプライバシーを損なわないような言葉かけを行っているが、出来ていない事がある。	管理者は現場に入り職員の対応に不適切な言動があった時はその場で指導し利用者への呼びかけや日常会話での言葉遣いや接し方に留意するように全職員で日々、努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声かけなどを行い、自己決定が出来るように、促している。全ての入居者に出来ているわけではない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースで出来るように対応しているが、時々それが行えていない事が見られる。しっかり話し合いをしているが、上手く機能していないように感じる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を尊重し、着替え時にどの服が着たいかを尋ねながら、選んでもらっている。また、月一回のお化粧品ボランティアに来て頂き、お化粧品をして頂いているが、日々の中で提供できていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日など、誕生日者より食べたい物を聞きメニューを出すようにしている。準備は中々手伝ってもらう事が出来ないの、皿、お盆拭きなど、出来る事を手伝っている。	献立作成から食材調達、調理を事業所で行い利用者は広告を見て食べたい物が反映される事もある。利用者出来る範囲で買い物や下膳を手伝える方にやって貰っている。職員は利用者と同じ食事を一緒に取るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事の量は，2週に1回体重測定をおこない，管理しており，盛り付けも，本人の状態を見ながら盛り付けている。水分補給は定期的に行い，水分量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後，声かけを行い，口腔ケアを行ってもらっている。状態によっては，歯科通院・訪問を行ってもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1日を通し，トイレに行った時間，回数など記録し，把握している。声かけを行い，トイレで排泄ができるようにしている。また，食事・水分の摂取量に気をつける。	一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し，時間を見計い，できるだけ自力で排泄を試みる事ができるようにトイレ誘導を行い支援している。日中はトイレへ夜間はパッド交換を行いオムツ外しの工夫に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時，食後などは便意の有無にかかわらず，トイレの声かけを行う。繊維物質のあるものを，食事に取り入れ，便秘時には，ドクターに相談して排便コントロールを行っている。またトイレ時にはしっかり力んでもらうように声かけを行い自分で排便できるように援助している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	体調などを考慮し，無理はせず，入浴を楽しめるように，その人の希望に合った介助などを行って，なるべく1日おきに入浴してもらっている。季節湯なども楽しんでもらうなどの対応をしている。	心地良い入浴を心掛け，家族が持って来た柚子を利用者，皆で楽しめる工夫をしている。一人で入浴したい方に見守りや声かけを行い個々の意向に合わせた入浴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室にはベッド、フロアにはソファなど休息出来る場所を作り、好きな時にゆっくり休んでもらえるようにしている。個人がゆっくりと休まれる場所の提供は出来ていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	配薬時に、2～3人のスタッフで声に出して2、3度確認を行い、誤薬などが無いように努めている。用法や副作用などの理解が全員にあるとは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、行事など行う事で、日々の楽しみを持ってもらえるように考えている。年間行事作成しそれについて企画している。入居者の誕生日には、ケーキなどを一緒に準備している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	以前は職員と、一緒に散歩や近所の買物に行ったりしたが、今はほとんど出来ていない。	餅つきや、節分の行事等に近隣の保育園の園児を招き利用者と園児との交流や職員が付き添いマツダスタジアムへ野球観戦、蛸祭り、紅葉狩り、回転寿司へ食事に出かける等、社会に触れるよう外出の機会を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人から要望があった場合、スタッフが持ち出して使用している。ただ入居者1人で使ったり、所持したりしてはいない。買い物に同行した場合、本人に支払ってもらうことはある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から要望があれば、ご家族に電話を出来るように取り組んでいる。プライバシーを考慮し、居室で話してもらっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室の前、トイレなどには手作りの表札をかけたたり、季節感を感じられる様に掛け軸をかけ、一緒になって飾りの創作などを、行っている。	事業所は2階建てのビルで、ベランダにゴーヤを栽培しており季節感を楽しませている。窓は大きく明るい陽射しが差し込んでいる。キッチン続きの食堂兼リビングは広々とし清潔さが行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブルを置き、入居者同士がゆっくり話が出来るように、努力しているが、共用空間に、独りになれる空間はないのが現状。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた家具などをそれぞれの居室に置き、自分が家にいるような空気作りを行っている。	利用者の馴染みのタンス、椅子、写真を持ち込みご自宅の環境に似た雰囲気を作り、想いの設えで生活拠点になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者が出来る所は、出来るだけ自分でやって頂いているが、時々、それが出来ない事がある。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもえぎ野

作成日 平成 25年8月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	15	食事が楽しみになる様な、一人ひとり好みや力を活かした支援が出来ていない。	一人ひとりの好みを把握し力を活かし、笑いのある食事を提供していきたい。	職員会議やカンファレンスを通じて一人ひとりの出来る事を把握し、一緒に出来る事を行いながら喜びを分かち合う。また、食事が楽しめるように、季節の食材を入れたり、音楽を流すなど楽しく食事出来る雰囲気作りを行って行く。	1ヶ月以内
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。